鉄欠乏性貧血－当帰芍薬散

文献

赤瀬朋秀，望月眞弓，佐川賢一，他．疫学的手法を用いた漢方薬の薬効及び経済性の評価　鉄欠乏性貧血に対する当帰芍薬散の効果．産婦人科漢方研究のあゆみ 1996: 13: 62-5.

1. リサーチクエスチョン（research question）

鉄欠乏性貧血と診断された女性の患者の治療を目的とした、当帰芍薬散による治療の費用対効果を、クエン酸第一鉄ナトリウム製剤（フェロミア錠）による治療を対照とした費用結果分析法により評価する。

分析の立場：記載なし（医療費支払者？）

2. 対象集団と介入（interventions）

対象集団：1993.1-1994.12 の 2 年間に鉄欠乏性貧血と診断され、なおかつ臨床検査記録が残っている症例 364 名（他の合併症を有する症例は対象外とされた）

介入群　：当帰芍薬散投与　147 名（平均年齢：41.4±3.8 歳）

対照群　：フェロミア錠投与 217 名（平均年齢：39.3±4.6 歳）

3. セッティング（location/setting）

日本、病院（外科・入院）

4. 方法（methods）

・コ　ス　ト：直接コスト（貧血治療薬と消化器の副作用に対応する薬のコスト。平成 6 年 12 月の薬価による）。データ収集期間は 1993.1-1994.12。

・アウトカム：臨床検査の指標（RBC、Hb、Hct）。データ収集期間は 1993.1-1994.12。

・割　引　率：記載なし。

5. 結果（results）

	1 人あたりコスト（JPY）					アウトカム
	平均治療日数	貧血治療薬のコスト	消化器薬併用件数の割合	併用消化器薬のコスト	総薬剤費	各臨床検査の指標
介入群	43.1 日	4,654.8	16.3%	817.6	4,788.3	正常値となった
対照群	65.7 日	2,309.1	68.2%	4,587.5	6,896.1	正常値となった
差分	-22.6 日	2,345.7	-51.9%	-	-2,107.8	-

総コストを算定した結果として、介入群（当帰芍薬散）のほうが 30%低く、より経済的に治療が行えることが明らかになった。

6. 著者の結論（authors' conclusions）

・鉄欠乏性貧血に対する当帰芍薬散の効果を鉄剤と比較して調査したところ、有効性、安全性、経済性のいずれをとっても当帰芍薬散が高い有用性を示した。

7. Abstractor のコメント

・著者らが診療録を通しレトロスペクティブの調査を行い、得られた経済評価の結論は妥当である。ただし、研究対象は臨床検査記録が残っている症例に限られているから、今後より広範囲の患者集団でのプロスペクティブの研究が望まれる。

8. Abstractor and date

唐/五十嵐　2012.3.5